

正しく動き、美しくつながり、強く創り出す「未来を生き抜く力」を育成する学校



「たい」のあふれる時津小



↑こちらからも↑

令和6年 6月 3日（月） 発行人：校長 森内 秀学

一緒に生きる

以前勤務していた学校は、特別支援学校との交流が盛んでした。私が交流学年の主任をしたとき、交流後に、特別支援学校の先生からこんな言葉をかけられたことがありました。

先生の学校の子どもたちは、とても優しくしてくれますが、「してあげる」という気持ちが強いように思います。おそらく子どもたちの中に、「特別支援学校の子どもは何もできない、かわいそう」という気持ちがあるのでしょうか。でも、できることはたくさんあります。次はもっと、「一緒に」という気持ちで活動してくれると嬉しいですね。

当時、私はその言葉に大変ショックを受けたことをよく覚えています。これは、「自分は支える側、相手は支えられる側」という、悪く言えば相手を下に見ているような様子が透けて見えたということです。言われた内容もショックでしたが、気付かなかった自分にもショックを受けました。

さて、時津小の子どもたちはどうだと思いますか？実は、時津小にも、できないことがある友達や、苦手なことに挑戦している友達を、無意識に下に見たり、心無い態度を示したりする子どもがいます。でも、本人にその自覚はありません。ということは、様々な場面で友達を傷つけている可能性があります。お子さんはどうでしょうか？友達の前で、保護者の方を交えた場で、そのような会話が行われていないのでしょうか？人は平等です。誰とでも「一緒に生きよう」そう言える、そう振る舞える子どもに育てたいと思っています。

今年の6月1日で、佐世保の大久保小事件から20年。本校でも、6月17日から「時津っ子の心を見つめる教育週間」が始まります。

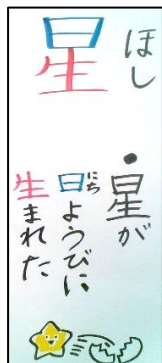


特別支援教育だより



自分に合った学び方を見つけよう！

何度も繰り返し練習しても、漢字がなかなか覚えられない…。そんな悔しい思いをしている子どもたちがいます。こうした困り感、特別な支援が必要な子どもたちに限りません。でも、見方や覚え方を工夫することで、字を正しく書くことができる場合があります。



例えば、色分けの工夫。黒一色ではなく、色分けすると、画数や画の方向、交わり方等に注意を向けられるようになります。また、唱えやすい語呂合わせにすると、漢字が覚えやすくなります。こうした工夫は、家庭でも実践できます。

通級指導教室では、「その子の良さを生かして苦手な改善を目指す」ということを大切にしています。自分の得意な方法は何か？どんな学び方が合っているのか？これからも、子どもたちにとって最適な学び方を、一緒に見つけていきます。

【中島亜沙美（通級指導教室担当・特別支援教育コーディネーター）】